

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社サニックス

2024年11月14日

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39

第2四半期(4-9月) 決算概況

資源循環領域における発電事業の売電単価が大きく低下したことで、前年同期で減収・減益となったものの、概ね計画通りに進捗

(百万円)	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	計画比
売上高	22,589	21,259	△ 1,330	△ 5.9%	22,726	△ 6.5%
売上総利益	8,548	7,761	△ 787	△ 9.2%	7,848	△ 1.1%
営業利益	1,481	650	△ 830	△ 56.1%	613	+6.1%
経常利益	1,343	499	△ 843	△ 62.8%	483	+3.5%
最終利益	1,126	270	△ 856	△ 76.0%	366	△ 26.4%

第2四半期(4-9月) セグメント別概況

住環境領域

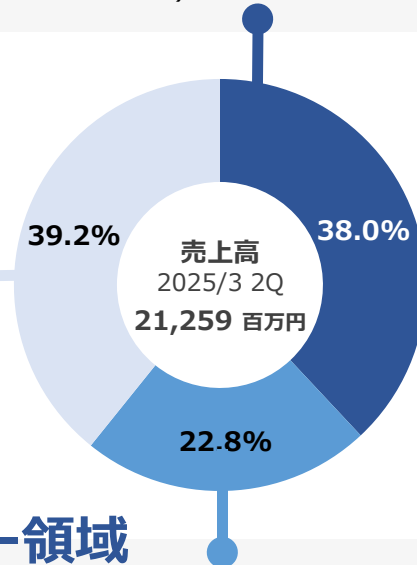
戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスに関する事業

- HS(ホーム・サニテーション)事業
- ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業
- SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

資源循環領域

廃プラスチックの再資源化や廃液の浄化・燃料製造等に関する事業

- プラスチック事業
- 廃液処理事業
- 発電事業
- 埋立事業

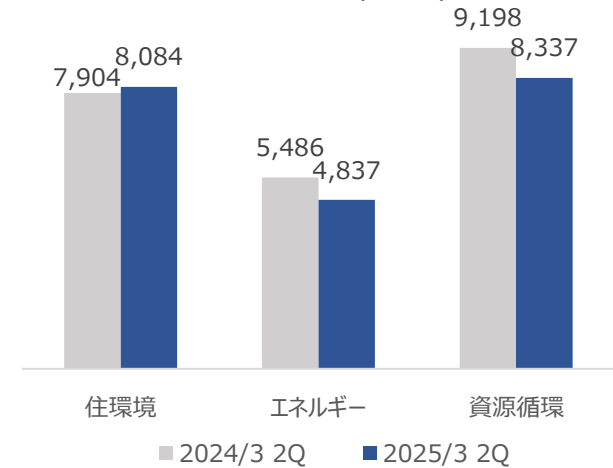


エネルギー領域

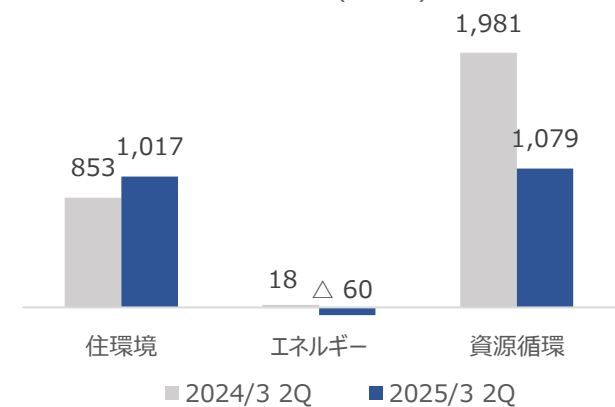
企業・法人向け太陽光発電システム等の販売、施工、メンテナンス等に関する事業

- PV(法人向け太陽光発電)事業
- 新電力事業

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

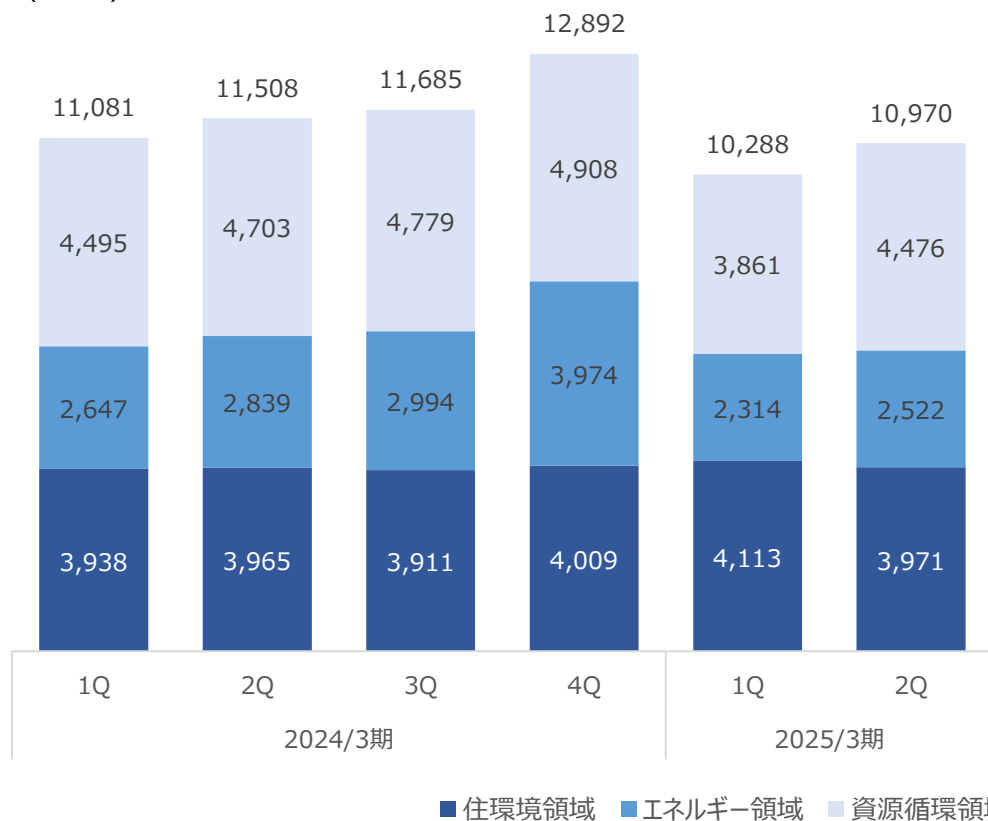


第2四半期(4-9月) セグメント別概況

		対前年同期(2Q累計)	
住環境領域	売上高 営業利益	8,084 百万円 1,017 百万円	(+2.3%) (+19.2%) <ul style="list-style-type: none"> ✓売上・利益ともに堅調に推移 ✓営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大 ✓提携先拡大等による顧客基盤の拡充
エネルギー領域	売上高 営業利益	4,837 百万円 △60 百万円	(△11.8%) (-%) <ul style="list-style-type: none"> ✓受注は堅持しているものの、案件の大型化や高度化等により受注から施工までの期間が長期化し、完工時期に遅れあり ✓新電力事業は継続して利益確保
資源循環領域	売上高 営業利益	8,337 百万円 1,079 百万円	(△9.4%) (△45.5%) <ul style="list-style-type: none"> ✓発電事業の売電契約単価の低下及び、ボイラー更新にともなう稼働停止(1Q)の影響あり ✓プラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移
本社費用	営業利益	△1,385 百万円	(-%) <ul style="list-style-type: none"> ✓人材確保に向けた採用活動の強化 ✓HD体制移行に向けた社内整備

第2四半期(4-9月) 売上高 (四半期推移)

(百万円)



対前年同期(2Q累計)

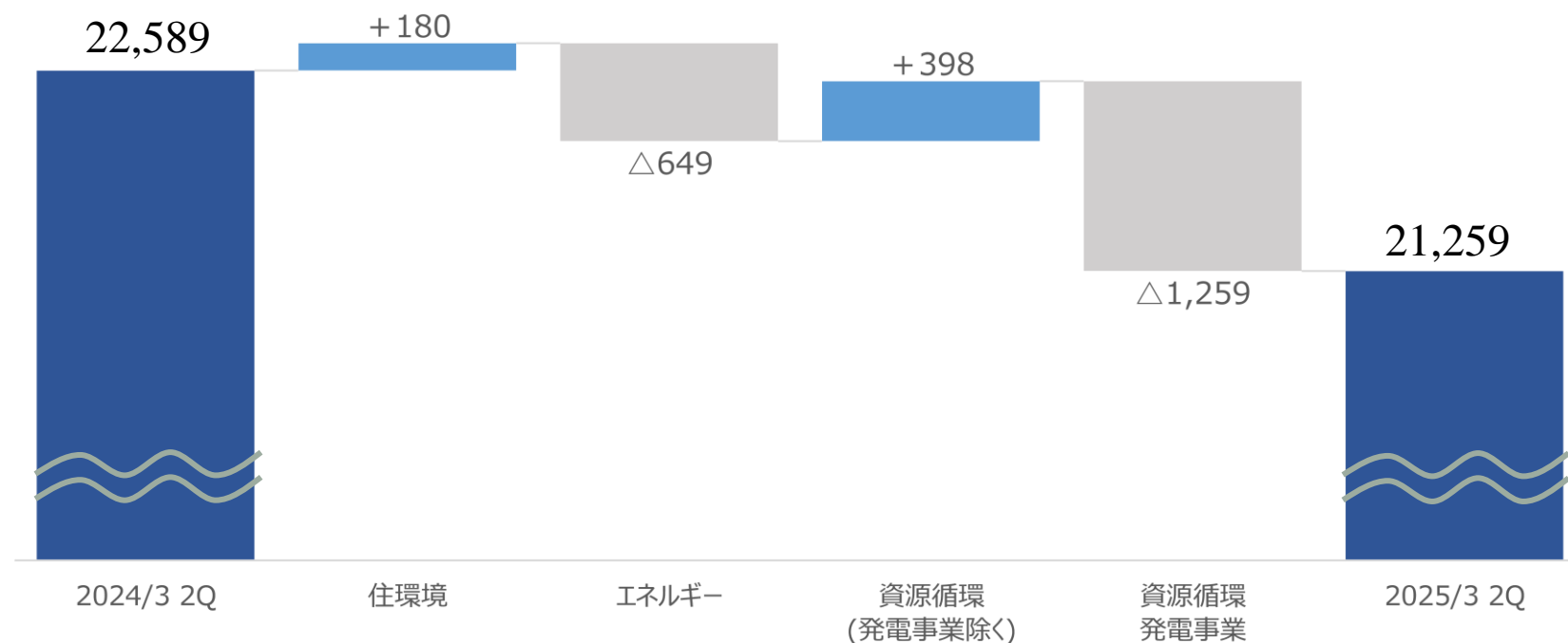
△ 5.9%減

第2四半期(4-9月) 売上高 対前年同期増減分析

売上高

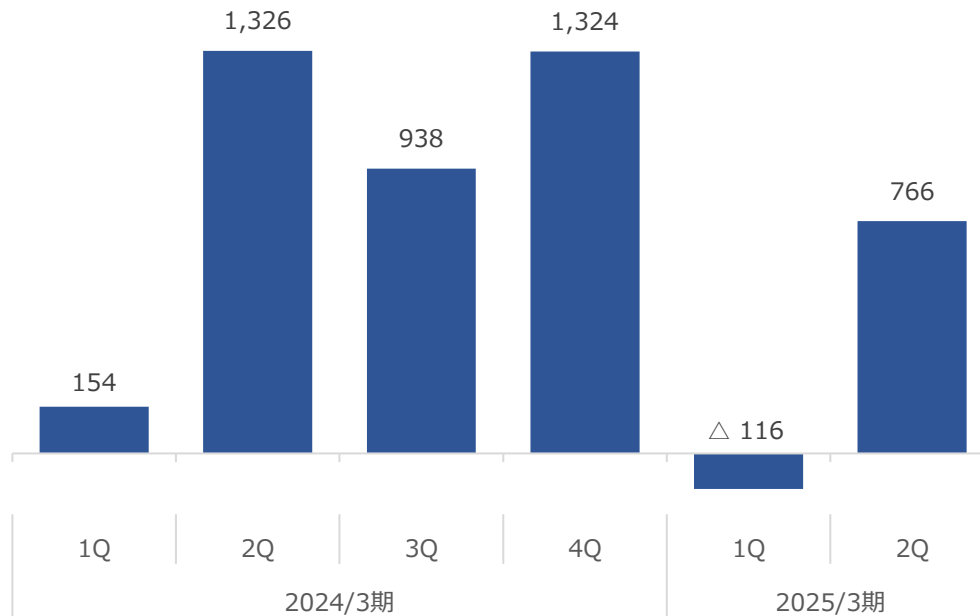
対前年同期 Δ **1,330** 百万円 発電事業除く売上 Δ **70** 百万円

(百万円)



第2四半期(4-9月) 営業利益 (四半期推移)

(百万円)



対前年同期(2Q累計)

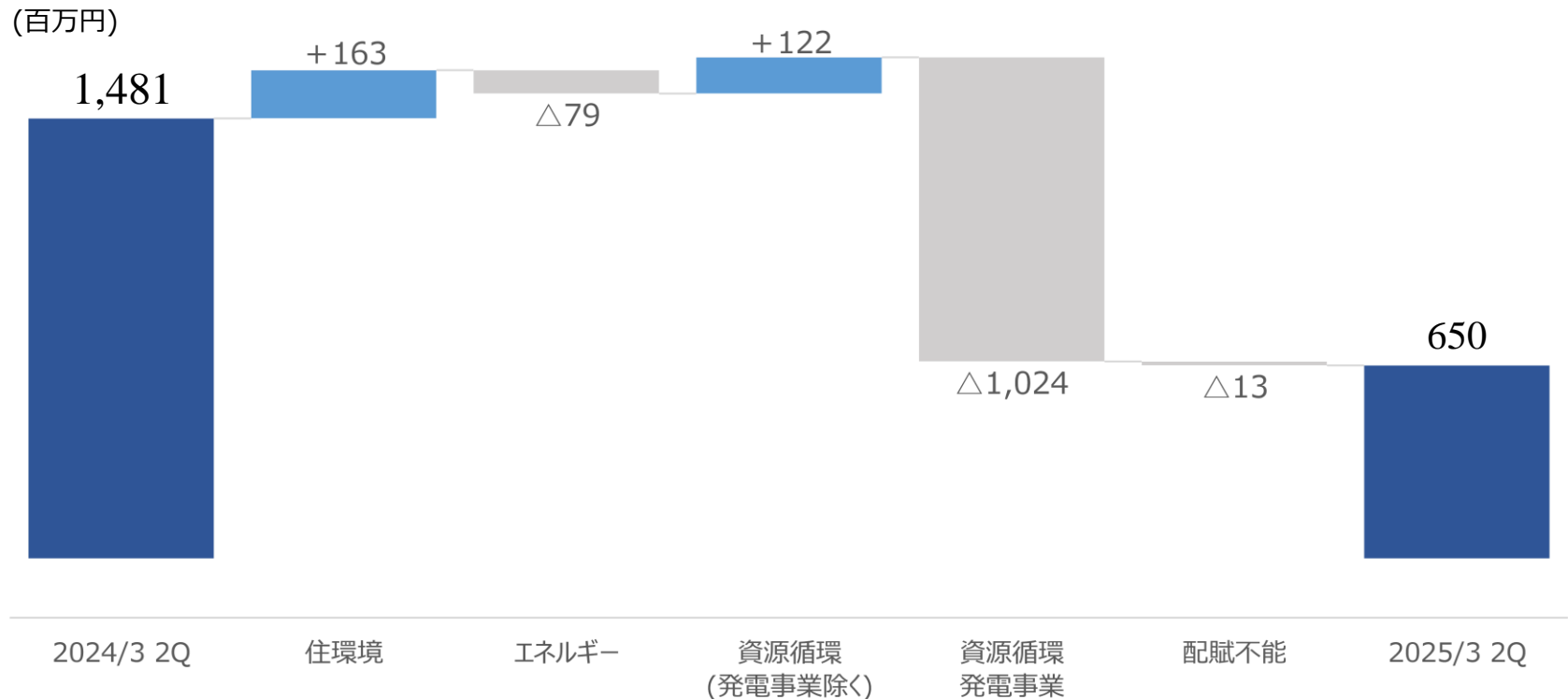
△ 56.1%減

第2四半期(4-9月) 営業利益 対前年同期増減分析

営業利益

対前年同期 Δ **830** 百万円

発電事業除く利益 **+ 193** 百万円



1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ① 住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ② エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③ 資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サンニクスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

HS(ホーム・サニテーション)事業

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

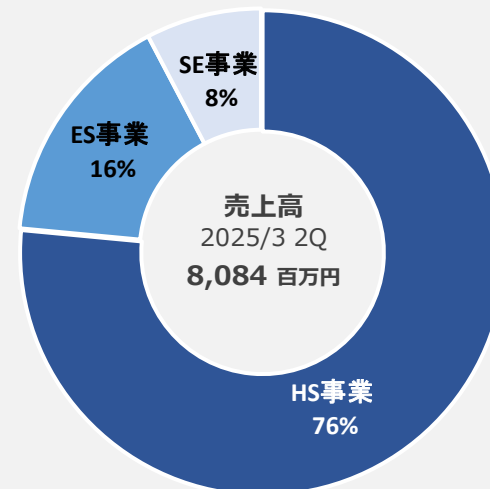


住宅用太陽光発電システム



蓄電池

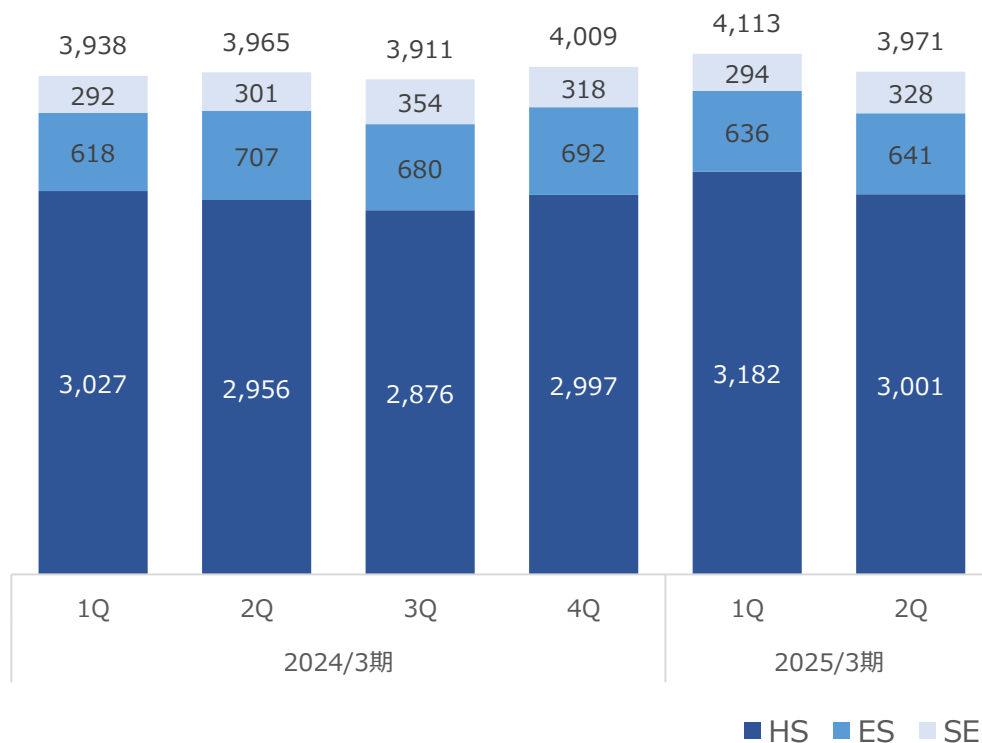
住環境領域 売上高構成比



住環境領域 | 売上高

法人営業体制強化に加えて、営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大により増収

(百万円)

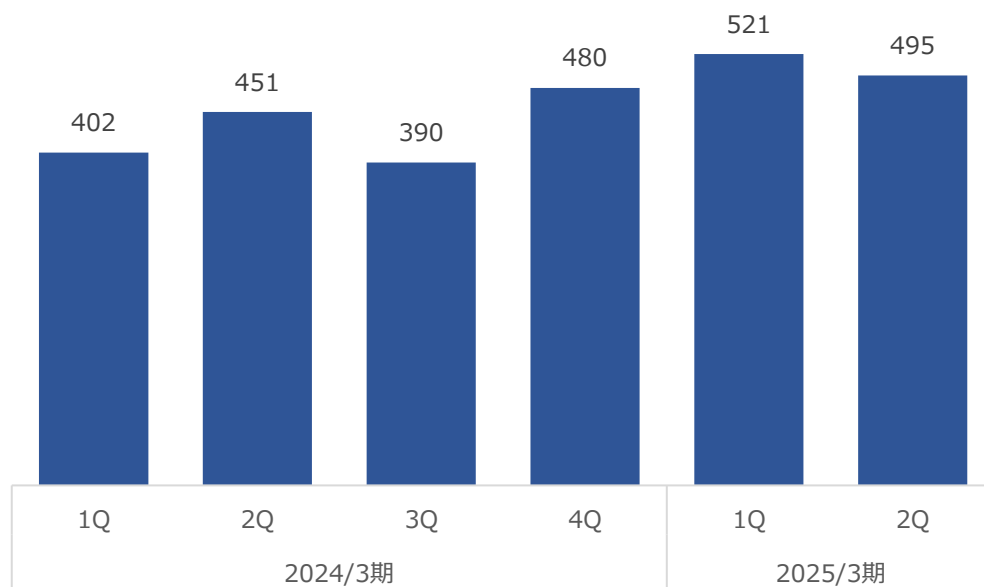


対前年同期(2Q累計)
+2.3%増

住環境領域 | 営業利益

高い限界利益率を維持し、安定した収益基盤を確保したことにより増益

(百万円)

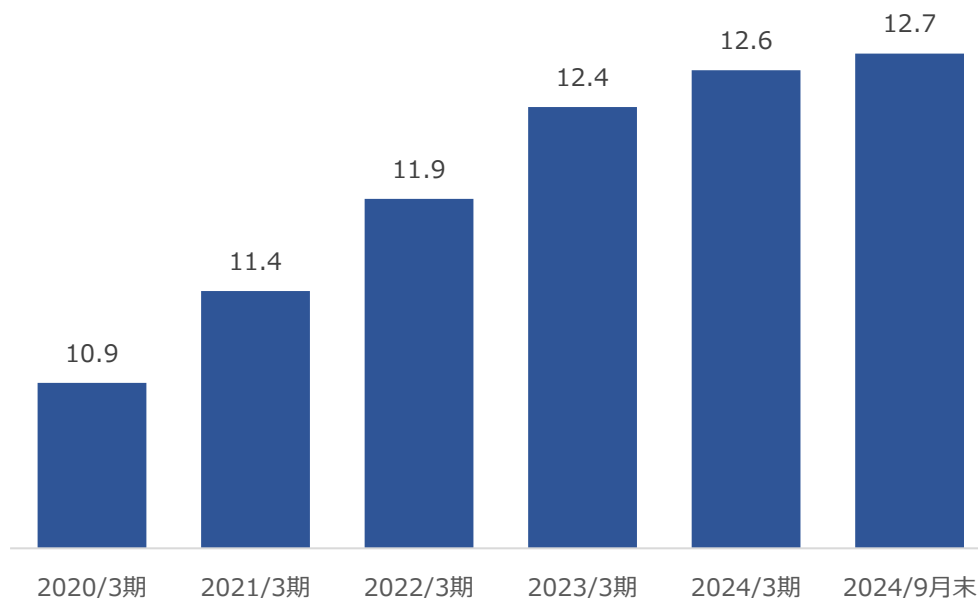


対前年同期(2Q累計)
+19.2%増

住環境領域 | 顧客件数

2020年3月期以降、顧客基盤は約2万件増加

(万件)



強固な顧客基盤

12.7万件

(2024年9月末現在)

※顧客件数は、HS事業の保証契約継続中の顧客数を記載

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39

エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サンニクスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

PV事業

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

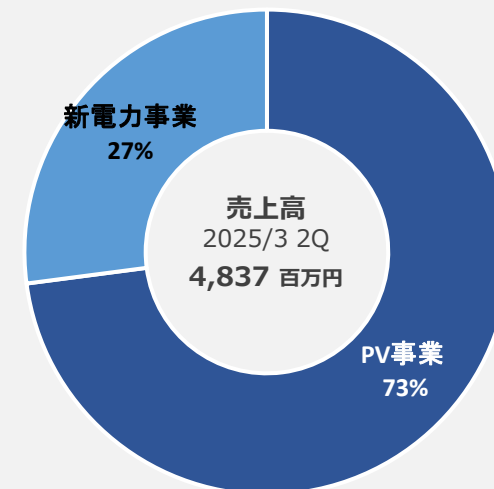
新電力事業

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

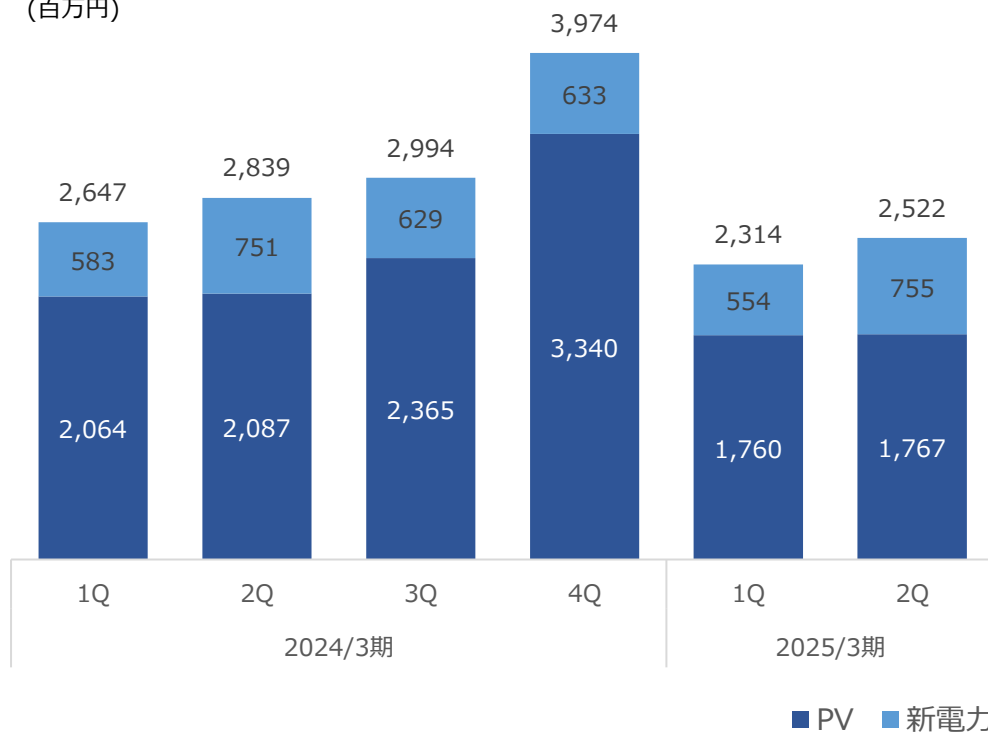
エネルギー領域 売上高構成比



エネルギー領域 | 売上高

脱炭素社会実現に向けた取り組みの本格化と電力コストの高騰を背景に受注は堅持しているものの、電力会社との太陽光発電システムにかかる系統連系の遅れや案件の大型化・高度化等により受注から施工までの期間が長期化し、完工時期に遅れが生じている

(百万円)



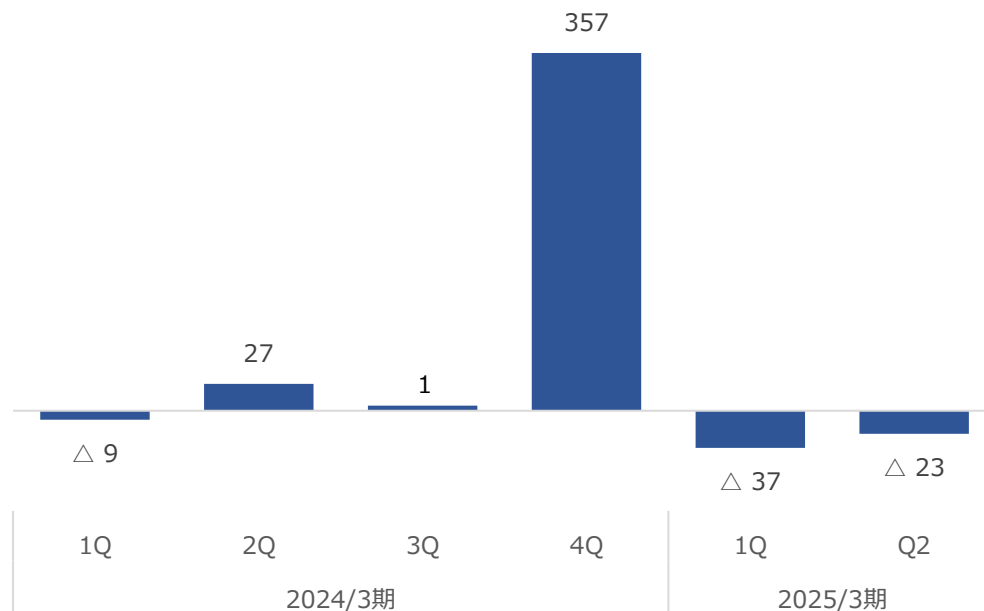
対前年同期(2Q累計)

△ **11.8%減**

エネルギー領域 | 営業利益

材料コストの低下等により粗利率は改善してきているものの、
完工時期の遅れにより固定費を吸収できず減益

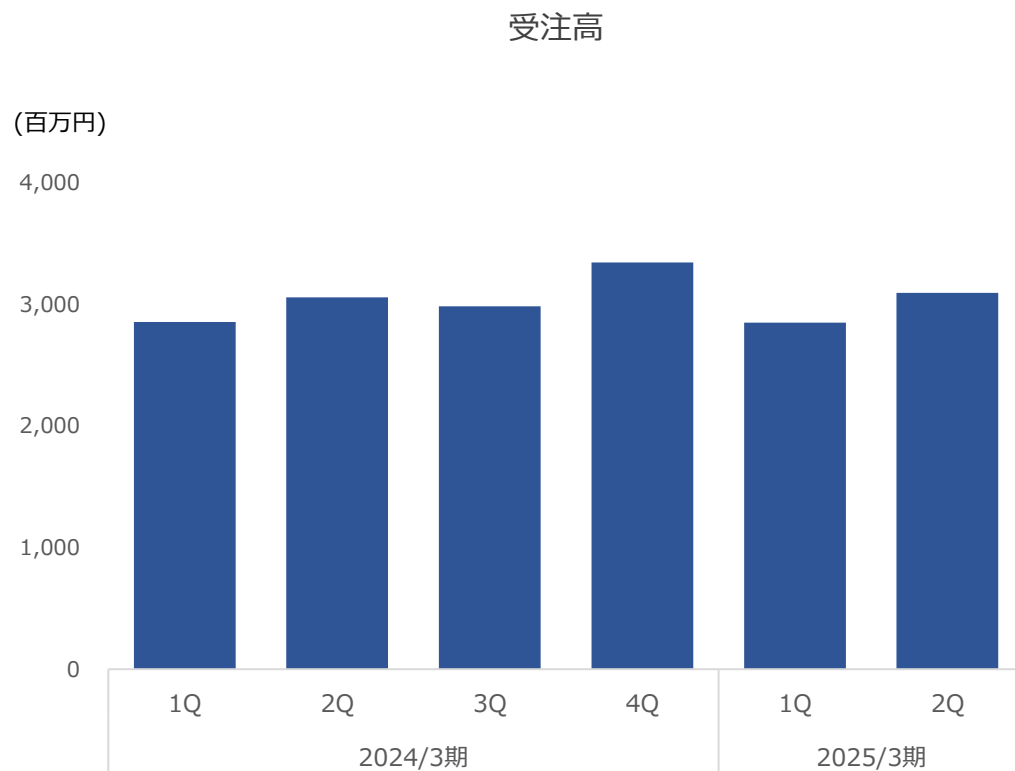
(百万円)



対前年同期(2Q累計)

△ 79百万円減

エネルギー領域 | PV事業 受注状況



※受注高は、お客様より書面にて承諾をいただいた金額を記載

脱炭素社会実現に向けた取り組みの
本格化と電力コストの高騰を背景に
関心がより高まっている

受注は堅持

通期計画の達成を見込む

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③**資源循環領域 (環境資源) P. 20**
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サンニクスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



最終処分場

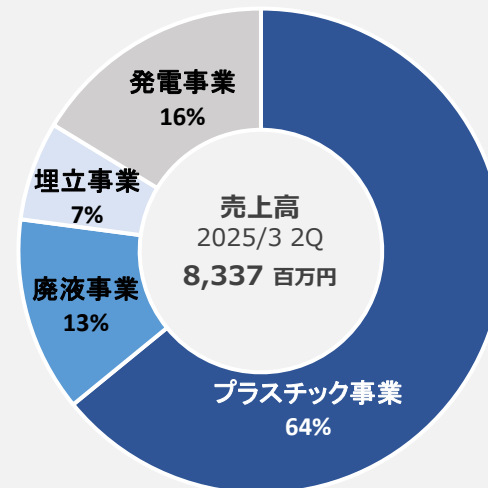
廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場

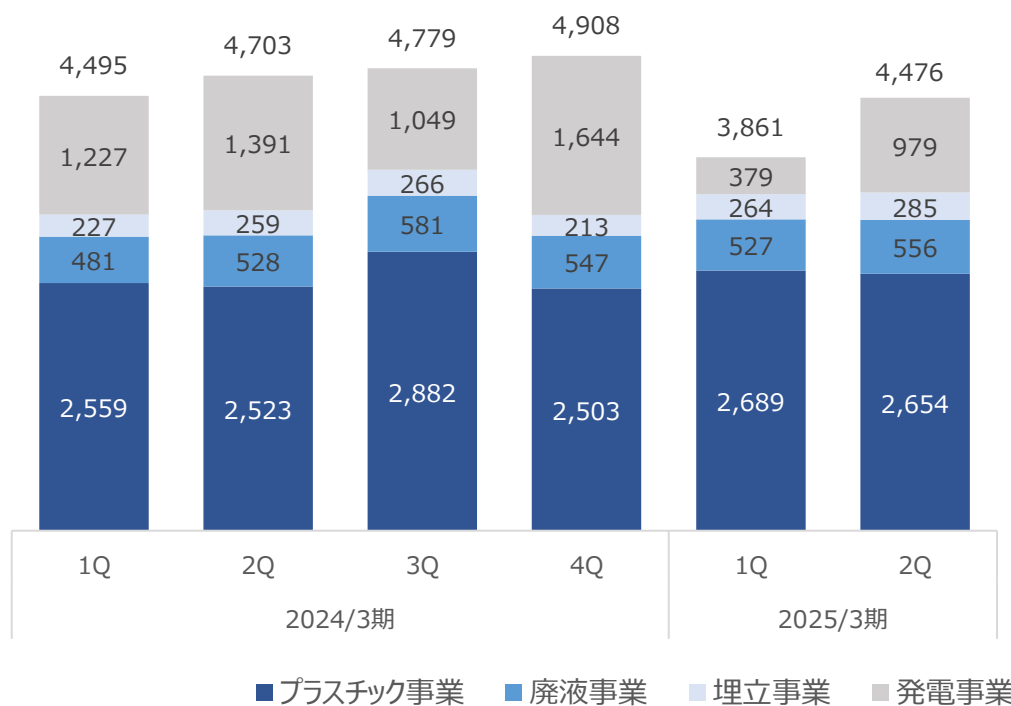
資源循環領域 売上高構成比



資源循環領域 | 売上高

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減収
一方で、プラスチック・廃液・埋立事業はそれぞれ伸長

(百万円)



対前年同期(2Q累計)

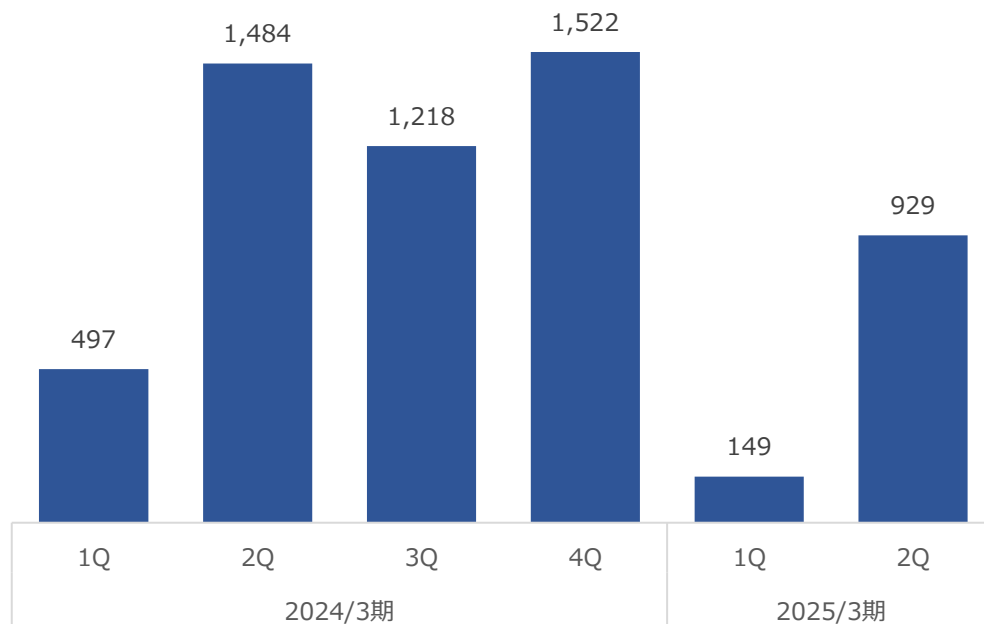
△9.4%減

発電事業除く売上
+6.1%増

資源循環領域 | 営業利益

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減益となったものの、
発電事業を除くプラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移

(百万円)



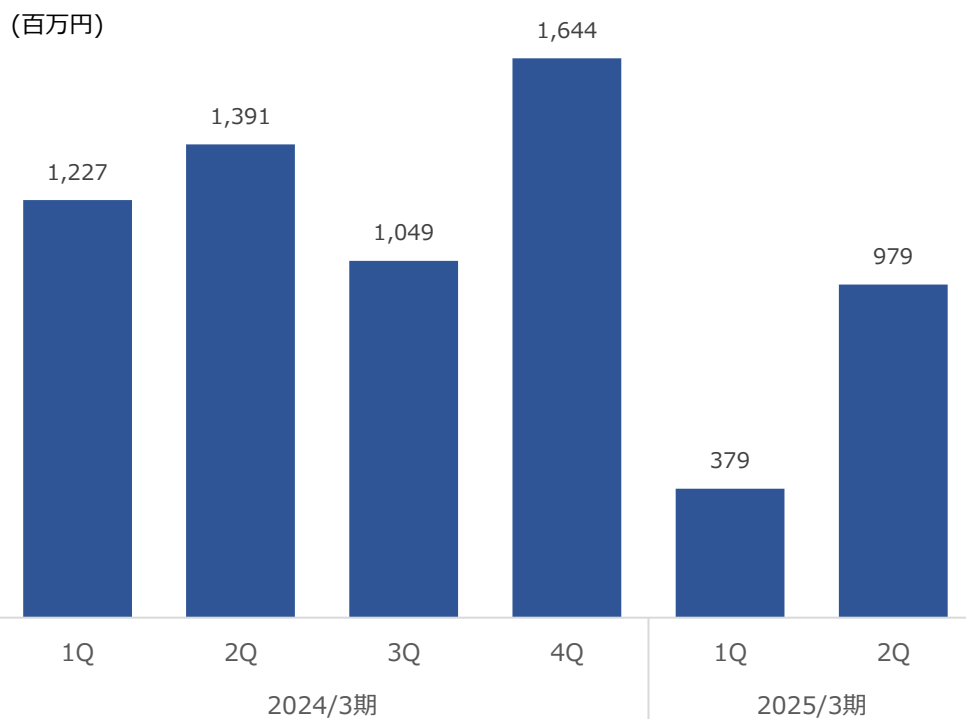
対前年同期(2Q累計)

△45.5%減

発電事業除く利益

+6.9%増

資源循環領域 | 発電事業 売上高 売電単価の低下及びボイラー更新にともなう稼働日数の減少(1Q) により減収



対前年同期(2Q累計)

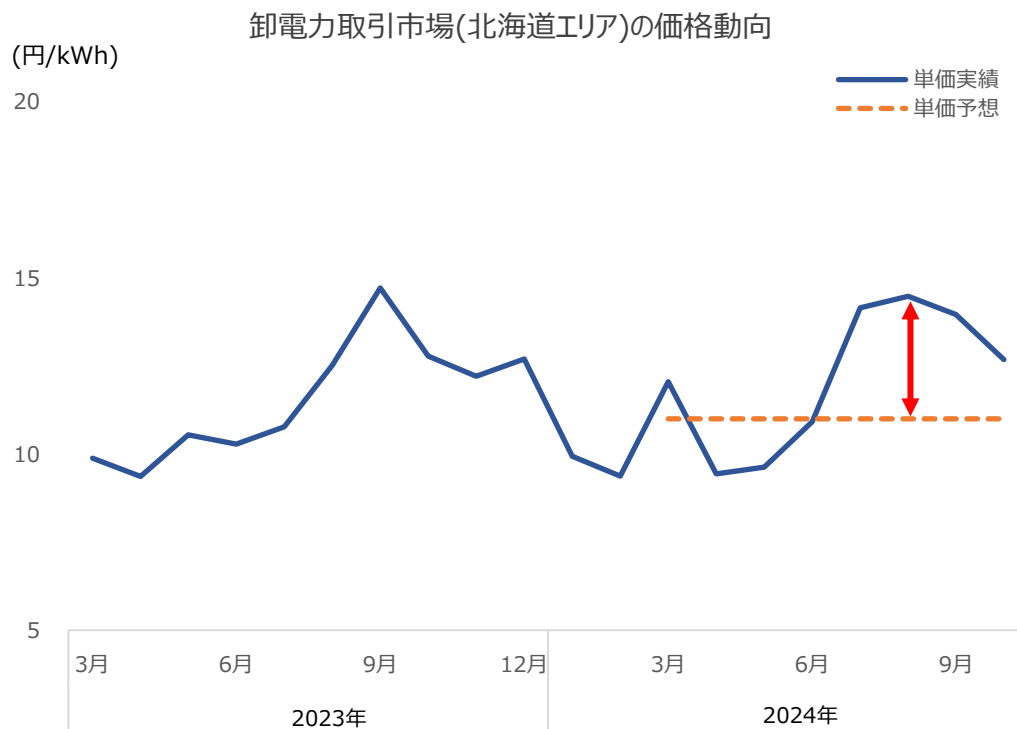
△48.1%減

ボイラー更新(1Q:約2カ月)

将来的な安定稼働に向けて
ボイラーの大規模な設備更新を実施

資源循環領域 | 発電事業の販売単価の推移

7月以降、卸電力取引市場の価格が上昇（好転）



販売面(発電事業)

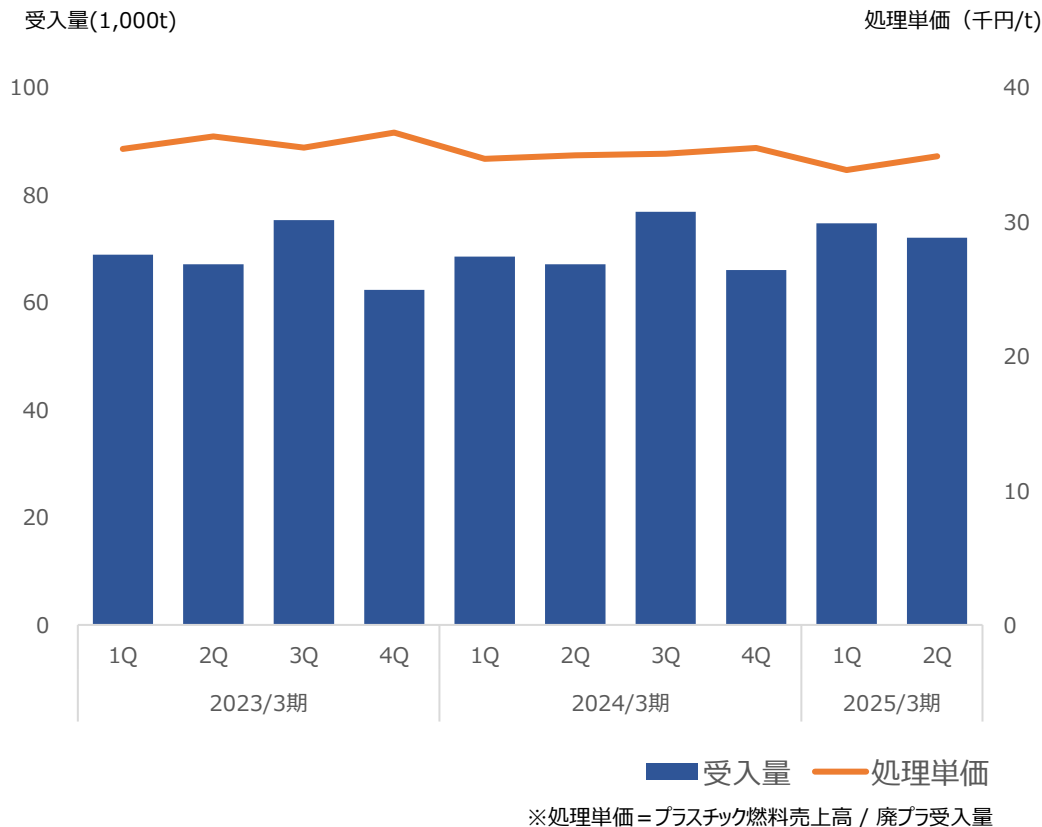
7月以降、市場価格は上昇。
入札案件の**販売価格も上昇**し、
新たに販売先の確保ができています

※卸電力取引市場（JEPX）の「スポット市場」資料を当社が加工

当社の電力調達に関わる重要な市場データとして、JEPX（スポット市場）価格の月間平均価格単価推移を記載しております。

JEPXの市場単価の予想は、価格予測サービスやLNG等の燃料価格の動向を鑑みて当社にて算出した数値を記載しております。

資源循環領域 | 廃プラスチックの受入状況 対応可能品目の拡大や設備増強により受入量の増加



対前年同期(2Q累計)
受入量 +8.2%増
処理単価 △1.3%減

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39

エネルギー領域 | さらなる事業拡大に向けた取り組み

太陽光発電設備の導入・拡大を目指す

サンニクスグループでは、工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進し、自家消費型・第三者保有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポートし、事業拡大を目指します。

サンニクスグループの強み



熊本県の県有施設（3施設）

熊本県の県有施設（3施設）へ太陽光発電設備等を導入する取り組み、「『初期投資ゼロモデル』による県有施設への再生可能エネルギー導入事業」の事業予定者に選定されました。



2024年9月12日

▼プレスリリース▼



太陽光発電設備等導入候補施設である熊本県環境センター、熊本県環境生活部環境局環境立県推進課より、提供

◆太陽光発電設備等導入候補施設（第三者保有型モデルにて導入予定）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) 宇城総合庁舎 | … 想定導入容量 68.5kW |
| (2) こども総合療育センター | … 想定導入容量157.4kW |
| (3) 環境センター | … 想定導入容量 31.3kW |

徳島県鳴門市のボートレース鳴門

徳島県鳴門市にあるボートレース鳴門へ太陽光発電設備等を導入する取り組み、「ボートレース鳴門太陽光発電設備等設置業務」の受託候補者として選定されました。



2024年10月18日

▼プレスリリース▼



太陽光発電設備等導入候補施設であるボートレース鳴門、鳴門市企業局ボートレース事業課より、提供

◆太陽光発電設備等導入候補施設（自家消費型モデルにて導入予定）

- ・ ボートレース鳴門 … 想定導入容量343.07kW + 蓄電池

資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

「環境エース一元くん」の販売強化へ

① トライアル

「環境エース一元くん」の利用料 **2年間無料キャンペーン** 実施

公募期間 2024年10月1日 ~ 2025年9月30日

※無料対象期間：システム運用開始日から2年間

初期費用・保守費用

無料



利用料

2年間：無料



「環境エース一元くん」は、排出事業者のあらゆる廃棄物管理業務をサポートするシステム（詳細はP.48参照）

② 認知拡大

テレビ番組などで「環境エース一元くん」のPR 実施

テレビ番組

ええじゃないかBiz

(ビジネスパーソンをメインターゲットとした情報番組)
放送局 TOKYO MX放送 (放送地域：東京都)

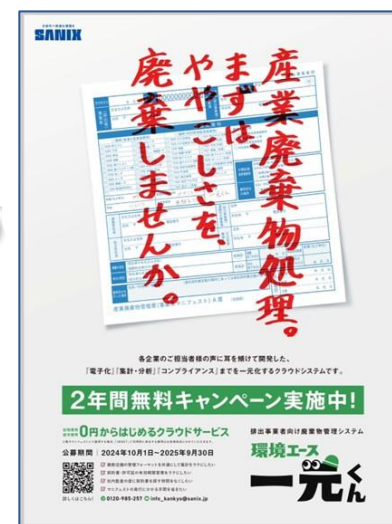
動画はこちら▶



新聞広告

日本経済新聞 (全国紙)
2024年11月12日に掲載

さらに **テレビCMや新聞広告、Web動画・広告など** 実施予定



資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

「環境エース一元くん」 2025年度末 **4万件** を目指す



事業基盤の拡大

「環境エース一元くん」の
収益増加

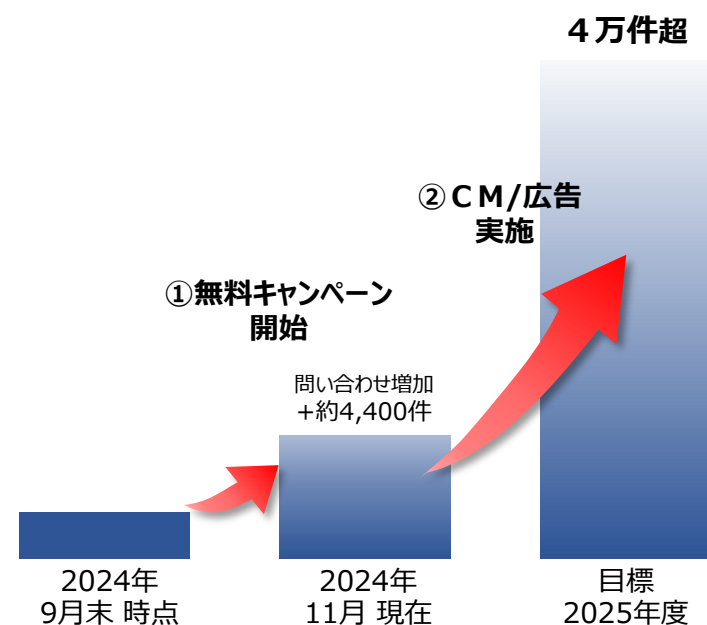


新規廃棄物の受入増加

価格競争の中でも、
付加価値の高いサービスを提供することで、顧客流出を防止する

2027年度下期より 無料期間が終了し、業績拡大に貢献し始める

環境エース一元くん（販売目標）

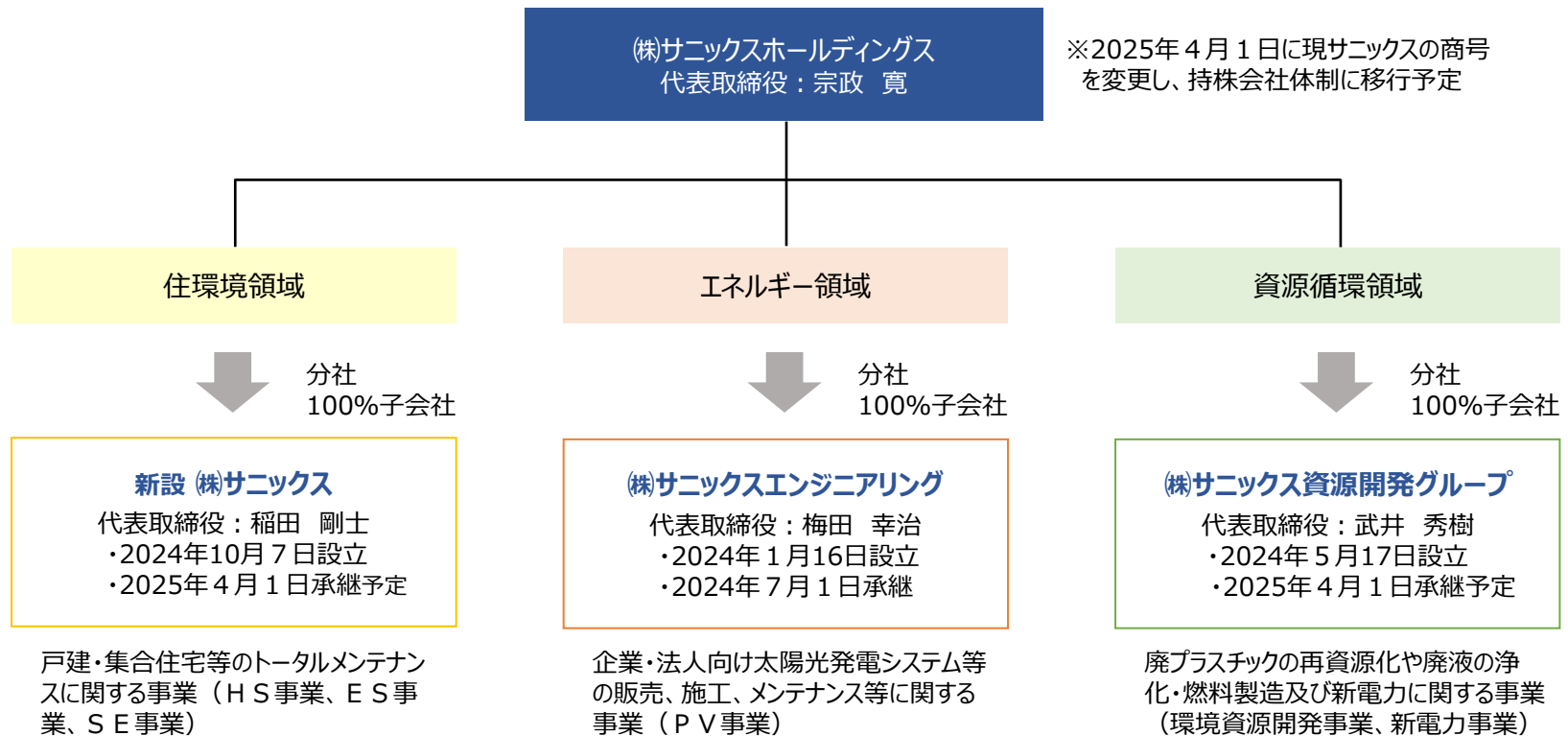


イメージ図

ホールディングス体制への移行（進捗状況）

2025年4月1日の移行に向けて、順調に進捗中

※2025年4月1日に現サンニックスの商号を変更し、持株会社体制に移行予定



2024年9月2日、繰越欠損金を解消(単体:欠損填補)

**財務体質の健全化を図るとともに、
資本政策の柔軟性と機動性を確保**



**現中期経営計画において
経営基盤の強化と通期計画の達成を図り
早期復配を目指す**

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39

業績見通しについては、2024/5/15発表より変更はありません

2025年3月期 通期連結業績見通し

●売上高 46,246百万円 (前期比 98.0%)

●営業利益 1,715百万円 (前期比 45.8%) (再掲)

	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
(百万円)						
売上高	22,726	+137	23,519	△1,058	46,246	△921
売上総利益	7,848	△700	8,153	△1,400	16,001	△2,100
(売上高売上総利益率)	34.5%		34.7%		34.6%	
営業利益	613	△868	1,102	△1,159	1,715	△2,028
(売上高営業利益率)	2.7%		4.7%		3.7%	
経常利益	483	△860	957	△1,165	1,440	△2,025
(売上高経常利益率)	2.1%		4.1%		3.1%	
親会社株主に帰属する当期純利益	366	△759	727	△843	1,093	△1,603
(売上高当期純利益率)	1.6%		3.1%		2.4%	

通期連結業績見通し | セグメント別見通し

● 主な要因

- 住環境領域 増収増益の見通し：営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大
- 資源循環領域 減収減益の見通し：苫小牧発電所の売電単価の低下

	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
売上高	22,726	+ 137	23,519	△ 1,058	46,246	△ 921
住環境領域	8,977	+ 1,073	8,726	+ 805	17,704	+ 1,879
エネルギー領域	6,115	+ 629	6,204	△ 764	12,320	△ 134
資源循環領域	7,633	△ 1,565	8,587	△ 1,099	16,221	△ 2,665
営業利益	613	△ 868	1,102	△ 1,159	1,715	△ 2,028
住環境領域	1,336	+ 483	1,043	+ 171	2,379	+ 655
エネルギー領域	174	+ 155	78	△ 279	252	△ 124
資源循環領域	566	△ 1,414	1,297	△ 1,443	1,863	△ 2,858
配賦不能	△ 1,464	△ 92	△ 1,316	+ 391	△ 2,780	+ 299

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【住環境領域】

● 前期比 増収・増益

- 既存顧客への継続的なフォロー体制の拡充及び、法人営業体制強化による顧客件数の増加を図る
- 白蟻防除から住宅環境ニーズへ幅広く対応（住宅用PPAや蓄電池など）
- 集合住宅向けには、防錆機器（商品名：ドールマンショック）から給排水設備の保全対策へ拡大

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	8,977		+ 1,073	8,726		+ 805	17,704		+ 1,879
H S 事業	6,816	75.9%	+ 832	6,502	74.5%	+ 628	13,318	75.2%	+ 1,461
E S 事業	1,366	15.2%	+ 39	1,433	16.4%	+ 59	2,800	15.8%	+ 99
S E 事業	795	8.9%	+ 200	791	9.1%	+ 117	1,586	9.0%	+ 318
売上原価	3,941	43.9%	+ 559	4,066	46.6%	+ 492	8,008	45.2%	+ 1,051
うち、材料費	1,378	15.4%	+ 250	1,402	16.1%	+ 215	2,781	15.7%	+ 465
うち、労務費	1,320	14.7%	+ 78	1,388	15.9%	+ 158	2,708	15.3%	+ 237
売上総利益	5,035	56.1%	+ 514	4,660	53.4%	+ 313	9,695	54.8%	+ 828
販売費・一般管理費	3,699	41.2%	+ 30	3,617	41.4%	+ 141	7,316	41.3%	+ 172
うち、人件費	2,332	26.0%	+ 92	2,333	26.7%	+ 137	4,665	26.4%	+ 230
営業利益	1,336	14.9%	+ 483	1,043	12.0%	+ 171	2,379	13.4%	+ 655

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【エネルギー領域】

● 前期比 減収・減益

- 太陽光発電システムにおいては、「自家消費」太陽光発電システム販路拡大を図るとともに、既設太陽光発電所の機器交換・アフターメンテナンスの体制強化を進める
- 苫小牧発電所の非化石価値電力の付加価値を有効活用した売電を推進

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	6,115		+ 629	6,204		△ 764	12,320		△ 134
P V 事業	4,898	80.1%	+ 746	4,986	80.4%	△ 720	9,884	80.2%	+ 26
新電力事業	1,217	19.9%	△ 117	1,218	19.6%	△ 44	2,436	19.8%	△ 161
売上原価	4,917	80.4%	+ 468	5,072	81.7%	△ 483	9,989	81.1%	△ 15
うち、材料費	3,427	56.0%	+ 246	3,498	56.4%	△ 420	6,925	56.2%	△ 173
うち、労務費	316	5.2%	+ 17	316	5.1%	+ 12	633	5.1%	+ 29
売上総利益	1,198	19.6%	+ 161	1,132	18.3%	△ 280	2,330	18.9%	△ 119
販売費・一般管理費	1,024	16.7%	+ 5	1,054	17.0%	△ 1	2,078	16.9%	+ 4
うち、人件費	539	8.8%	△ 7	572	9.2%	+ 1	1,112	9.0%	△ 6
営業利益	174	2.8%	+ 155	78	1.3%	△ 279	252	2.1%	△ 124

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【資源循環領域】

● 前期比 減収・減益

- プラスチック事業においては、設備投資による受入量の拡大及び販路拡大
- プラスチック原料として再利用する「マテリアルリサイクル」への展開を進める
- 契約書・マニフェスト、自治体への実績報告等のサポートに加え、サステナビリティ報告に必要な排出量算出ができるように、廃棄業務管理システムの機能を拡充
- 廃液処理においては、重油代替燃料「再生油Bio」の製造増強や、廃液処理後に発生する汚泥の再生燃料化を推進

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	7,633		△ 1,565	8,587		△ 1,099	16,221		△ 2,665
プラスチック事業	5,049	66.2%	△ 33	5,213	60.7%	△ 171	10,263	63.3%	△ 204
発電事業	1,053	13.8%	△ 1,565	1,850	21.5%	△ 844	2,903	17.9%	△ 2,409
廃液事業	1,136	14.9%	+ 126	1,198	14.0%	+ 69	2,335	14.4%	+ 196
埋立事業	393	5.1%	△ 93	325	3.8%	△ 154	718	4.4%	△ 248
売上原価	6,018	78.8%	△ 190	6,227	72.5%	+ 333	12,246	75.5%	+ 143
うち、労務費	995	13.0%	+ 45	1,004	11.7%	+ 4	1,999	12.3%	+ 50
売上総利益	1,614	21.2%	△ 1,375	2,360	27.5%	△ 1,433	3,974	24.5%	△ 2,809
販売費・一般管理費	1,048	13.7%	+ 39	1,063	12.4%	+ 9	2,111	13.0%	+ 48
うち、人件費	637	8.3%	+ 36	640	7.5%	+ 5	1,278	7.9%	+ 42
営業利益	566	7.4%	△ 1,414	1,297	15.1%	△ 1,443	1,863	11.5%	△ 2,858

1. 第2四半期(4-9月) 決算概況 P. 2
2. セグメント別概況 P. 10
 - ①住環境領域 (HS・ES・SE) P. 10
 - ②エネルギー領域 (PV・新電力) P. 15
 - ③資源循環領域 (環境資源) P. 20
3. トピックス P. 27
4. 通期連結業績見通し P. 33
5. 参考資料 P. 39

第2四半期(4-9月) 決算概況

(百万円)	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	計画比
売上高	22,589	21,259	△ 1,330	△ 5.9%	22,726	△ 6.5%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	8,548 37.8%	7,761 36.5%	△ 787	△ 9.2%	7,848 34.5%	△ 1.1%
営業利益 (売上高営業利益率)	1,481 6.6%	650 3.1%	△ 830	△ 56.1%	613 2.7%	+ 6.1%
経常利益 (売上高経常利益率)	1,343 5.9%	499 2.4%	△ 843	△ 62.8%	483 2.1%	+ 3.5%
親会社株主に帰属 する中間純利益 (売上高中間純利益率)	1,126 5.0%	270 1.3%	△ 856	△ 76.0%	366 1.6%	△ 26.4%

第2四半期(4-9月) セグメント別概況

(百万円)	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	計画比
売上高	22,589	21,259	△ 1,330	△ 5.9%	22,726	△ 6.5%
住環境領域	7,904	8,084	+ 180	+ 2.3%	8,977	△ 9.9%
エネルギー領域	5,486	4,837	△ 649	△ 11.8%	6,115	△ 20.9%
資源循環領域	9,198	8,337	△ 861	△ 9.4%	7,633	+ 9.2%
営業利益	1,481	650	△ 830	△ 56.1%	613	+ 6.1%
住環境領域	853	1,017	+ 163	+ 19.2%	1,336	△ 23.9%
エネルギー領域	18	△ 60	△ 79	—	174	—
資源循環領域	1,981	1,079	△ 901	△ 45.5%	566	+ 90.5%
配賦不能	△ 1,371	△ 1,385	△ 13	—	△ 1,464	—

セグメント別概況 | 住環境領域

	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	計画比
(百万円)						
売上高	7,904	8,084	+ 180	+ 2.3%	8,977	△ 9.9%
H S 事業	5,983	6,184	+ 200	+ 3.4%	6,816	△ 9.3%
E S 事業	1,326	1,277	△ 48	△ 3.7%	1,366	△ 6.5%
S E 事業	594	622	+ 28	+ 4.8%	795	△ 21.7%
売上原価	3,382	3,522	+ 140	+ 4.1%	3,941	△ 10.6%
うち、材料費	1,128	1,123	△ 5	△ 0.5%	1,378	△ 18.5%
うち、労務費	1,242	1,231	△ 11	△ 0.9%	1,320	△ 6.8%
売上総利益	4,521	4,561	+ 39	+ 0.9%	5,035	△ 9.4%
販売費・一般管理費	3,668	3,544	△ 123	△ 3.4%	3,699	△ 4.2%
うち、人件費	2,239	2,178	△ 61	△ 2.7%	2,332	△ 6.6%
営業利益	853	1,017	+ 163	+ 19.2%	1,336	△ 23.9%

セグメント別概況 | エネルギー領域

(百万円)	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	計画比
売上高	5,486	4,837	△ 649	△ 11.8%	6,115	△ 20.9%
P V 事業	4,151	3,527	△ 623	△ 15.0%	4,898	△ 28.0%
新電力事業	1,335	1,309	△ 25	△ 1.9%	1,217	+ 7.5%
売上原価	4,449	3,779	△ 669	△ 15.1%	4,917	△ 23.1%
うち、材料費	3,180	2,584	△ 595	△ 18.7%	3,427	△ 24.6%
うち、労務費	299	305	+ 5	+ 2.0%	316	△ 3.6%
売上総利益	1,037	1,057	+ 20	+ 2.0%	1,198	△ 11.7%
販売費・一般管理費	1,018	1,118	+ 100	+ 9.8%	1,024	+ 9.2%
うち、人件費	547	609	+ 62	+ 11.4%	539	+ 13.1%
営業利益	18	△ 60	△ 79	—	174	—

セグメント別概況 | 資源循環領域

(百万円)	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績	増減額	増減率	2025/3期 上期計画	計画比
売上高	9,198	8,337	△ 861	△ 9.4%	7,633	+ 9.2%
プラスチック事業	5,083	5,344	+ 260	+ 5.1%	5,049	+ 5.8%
発電事業	2,618	1,359	△ 1,259	△ 48.1%	1,053	+ 29.0%
廃液事業	1,009	1,083	+ 73	+ 7.3%	1,136	△ 4.6%
埋立事業	486	550	+ 63	+ 13.1%	393	+ 40.1%
売上原価	6,208	6,194	△ 13	△ 0.2%	6,018	+ 2.9%
うち、労務費	949	1,002	+ 52	+ 5.5%	995	+ 0.7%
売上総利益	2,990	2,142	△ 847	△ 28.3%	1,614	+ 32.7%
販売費・一般管理費	1,008	1,063	+ 54	+ 5.4%	1,048	+ 1.4%
うち、人件費	600	623	+ 22	+ 3.8%	637	△ 2.2%
営業利益	1,981	1,079	△ 901	△ 45.5%	566	+ 90.5%

財務状況

単位:百万円	2024/3期	2025/3期	前 期 末	
	期末	2Q末	差異	増減率
流動資産	16,211	13,802	△ 2,408	△ 14.9%
固定資産	20,753	22,427	+ 1,673	+ 8.1%
資産合計	36,965	36,230	△ 735	△ 2.0%
流動負債	18,010	16,748	△ 1,261	△ 7.0%
固定負債	10,042	10,368	+ 325	+ 3.2%
負債合計	28,053	27,117	△ 936	△ 3.3%
純資産合計	8,912	9,113	+ 201	+ 2.3%
負債純資産合計	36,965	36,230	△ 735	△ 2.0%
自己資本比率	24.1%	25.1%		

設備投資・減価償却費 実績

(百万円)	2024/3期 2Q 実績	2025/3期 2Q 実績
住環境領域	6	13
エネルギー領域	113	82
資源循環領域	1,583	2,168
本社	137	20
設備投資合計	1,841	2,285
減価償却費	806	824

【主な設備投資】

【資源循環領域】

- 苫小牧発電所にかかる投資 : 1,606百万円
- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 382百万円
- 廃液処理にかかる投資 : 135百万円

【エネルギー領域】

- 自治体向けPPAにかかる投資 : 38百万円

セグメント別 人員・拠点数

	2024/3期 期末		2025/3期 2Q末		人員増減
	拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S 事業	62	864	62	871	+7
E S 事業	12	162	11	158	△4
S E 事業	14	75	14	72	△3
P V 事業	30	245	27	265	+20
新電力事業	1	13	1	14	+1
環境資源開発事業	19	455	19	472	+17
本社	—	235	—	233	△2
合 計	—	2,049	—	2,085	+36

※上記拠点数には、同一拠点を含む

※環境資源開発部門は、発電所1拠点、最終処分場1拠点含む

重要経営指標

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	27.9%	—	24.8%	36.1%	11.6%
総資産経常利益率	ROA	6.4%	—	4.5%	9.8%	3.8%
自己資本比率		24.5%	13.5%	18.0%	24.1%	25.4%
投下資本利益率	ROIC	11.2%	—	8.4%	14.4%	6.4%
設備投資 (百万円)		3,083	2,776	1,566	2,743	3,900
減価償却費 (百万円)		1,097	1,509	1,889	1,654	1,700

「一元くん」シリーズの紹介

「一元くん」シリーズとは

廃棄物管理業務のあらゆるシーンをサポートするシステムです。



サービス詳細はこちら▶



排出事業者の

- (1) コンプライアンス（法令遵守）
- (2) 一元管理で、廃棄業務の省力化・効率化
- (3) 「見える化」により、コスト適正化および環境貢献（脱炭素・資源循環・SDGs）

を実現

排出事業者向け 廃棄物管理システム 無料キャンペーン対象

- ▶ 廃棄物の回収・処理の流れ、量やリサイクル率など、廃棄物のすべてを「見える化」し、適正で効率的な業務遂行を実現するシステム
- 2022年4月1日より 販売開始

その他ラインナップ

収集運搬事業者向け

2023年5月1日より 販売開始



サービス詳細はこちら▶



中間処理事業者向け

2024年5月15日より 販売開始



サービス詳細はこちら▶



「一元くん」シリーズの誕生秘話を紹介

現代社会における廃棄物管理は、地球環境を守るための重要な課題となっています。都市化と産業化の進展により、廃棄物の量は増加の一途をたどり、その処理が環境に与える影響も深刻化しています。それに伴い、コンプライアンス順守、廃棄物処理法、不法投棄、属人化、ペーパーレス、事務負担軽減など、廃棄物業界には解決すべき課題が多くあります。「そんな廃棄物業界の課題を解決したい」という思いから、「一元くん」シリーズは誕生しました。

廃棄物業界の問題

- ① 属人化問題
- ② 管理コストと作業時間の増大
- ③ その他法令順守 等

問題を解消すべく

「一元くん」シリーズが誕生！

▼誕生秘話の詳細はこちら▼



ビジネスチャンスの拡大 | 展示会への積極的な出展

展示会 出展情報

2024年

下記以外にも多くの展示会等にも出展しております。

上期

- 2024NEW環境展 (5/22-5/24)
- 課題解決EXPO (7/3-7/5)
- ファベックス中部 (7/24-7/25)
- くさつ環境FESTA (8/25)
- 国際フロンティア産業メッセ (9/5-9/6)

10月

- ふくしま再生可能エネルギー産業フェア (10/17-11/18)
- ファベックス関西 (10/16-11/18)

11月

- ひたちなか市産業交流フェア (11/2-11/3)
- フードメッセ (11/6-11/8)
- FOOD STYLE Kyushu (11/13-11/14)
- ビジネスマッチ東北 (11/14)
- ぐんま環境フェスティバル (11/16)
- つ・環境フェスタ2024 (11/23)
- 彩の国ビジネスアリーナ2024 (11/22-11/23)

環境関連の展示会に積極的に出展し、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場等から排出される廃液の浄化などの取り組みを紹介しています。さらに、10月以降は、環境エース一元くんの「使用料2年間無料キャンペーン」のPRをしています。



補足資料

企業理念 「次世代へ快適な環境を」

エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』
再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に

つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅
流通市場形成

住環境領域

- HS
- ES
- SE

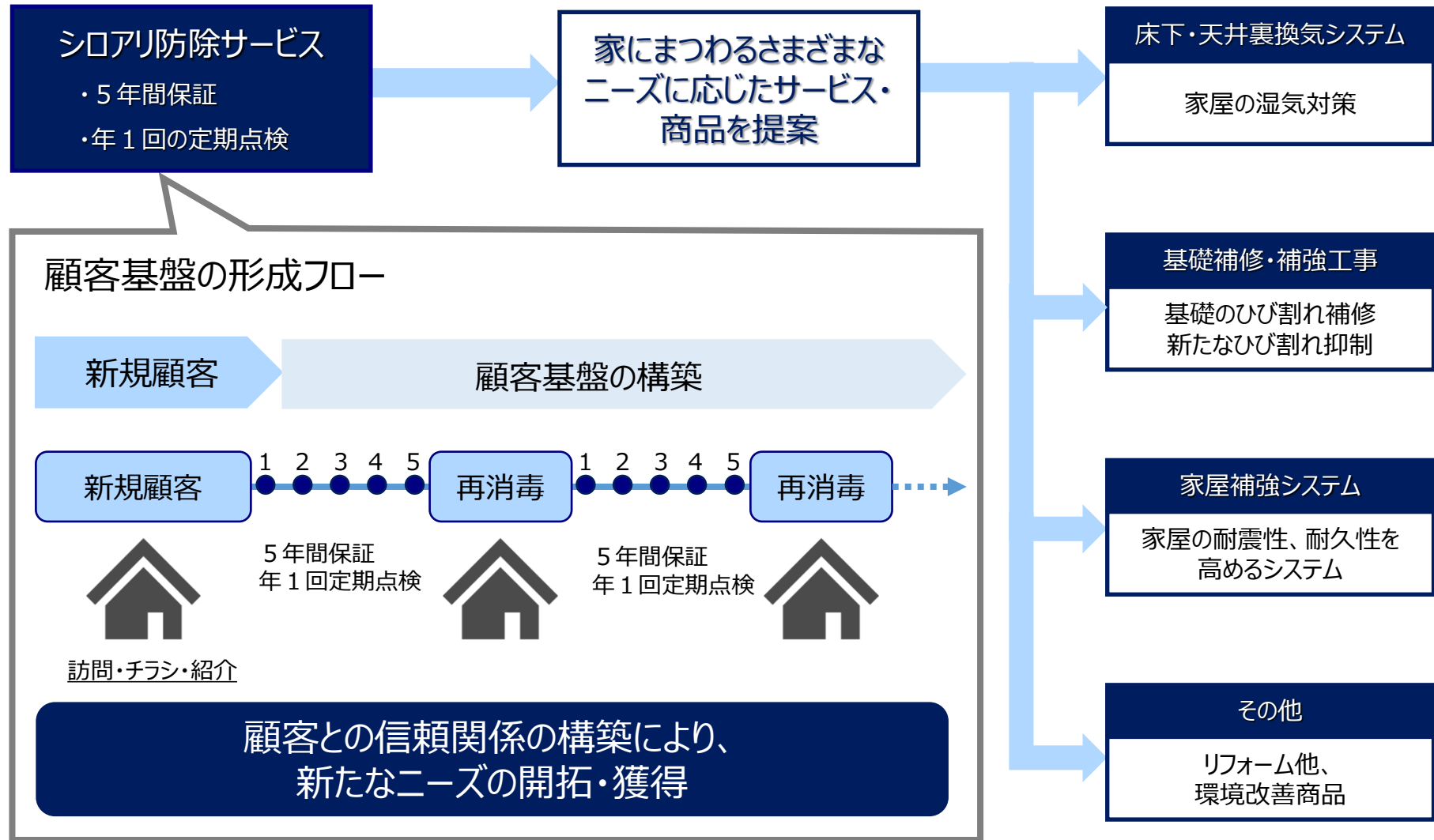
資源循環領域

- 環境資源

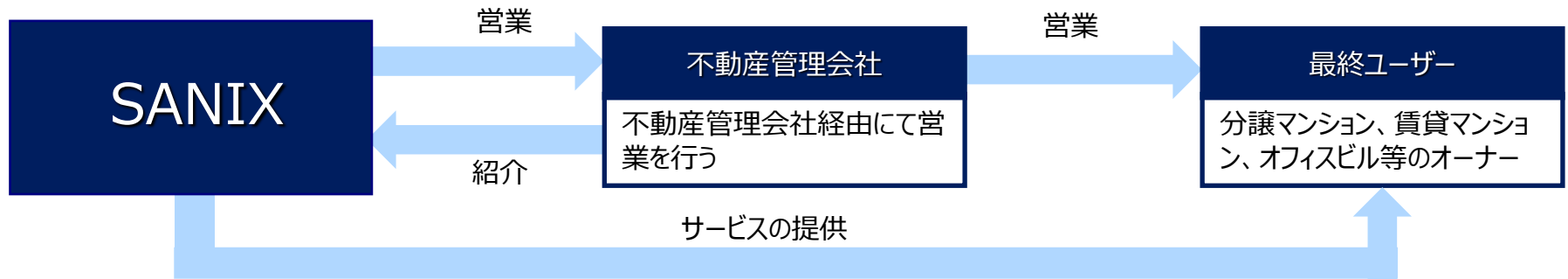
『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、
プラスチック資源循環戦略

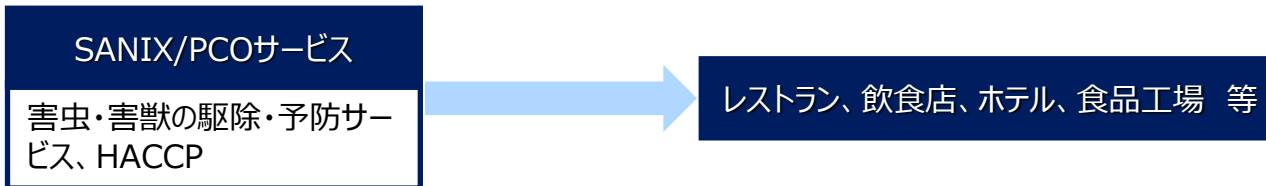
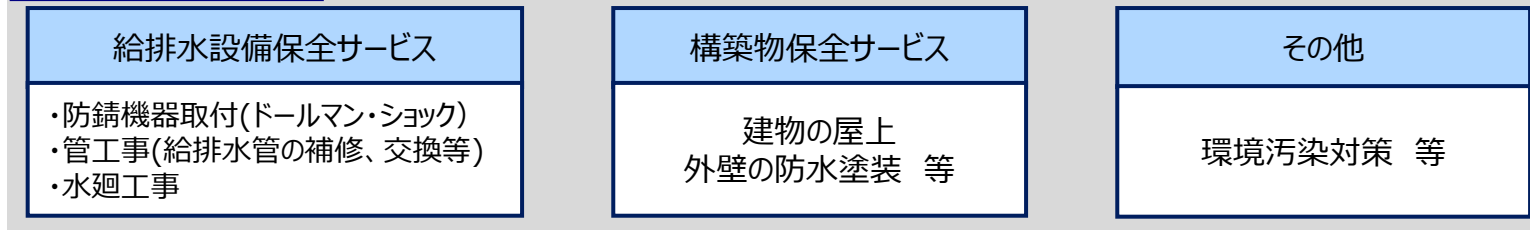
HS事業構造



E S 事業構造



主なサービス・商品



年間契約 (月 1 回の点検、消毒)

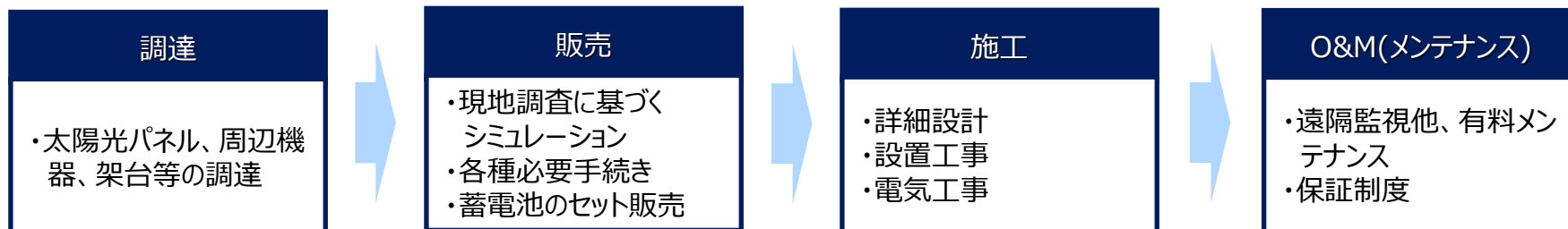


年間契約のため、継続率が高い



SE/PV事業構造

調達・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



住宅向け（10kW未満） 主にSE事業

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

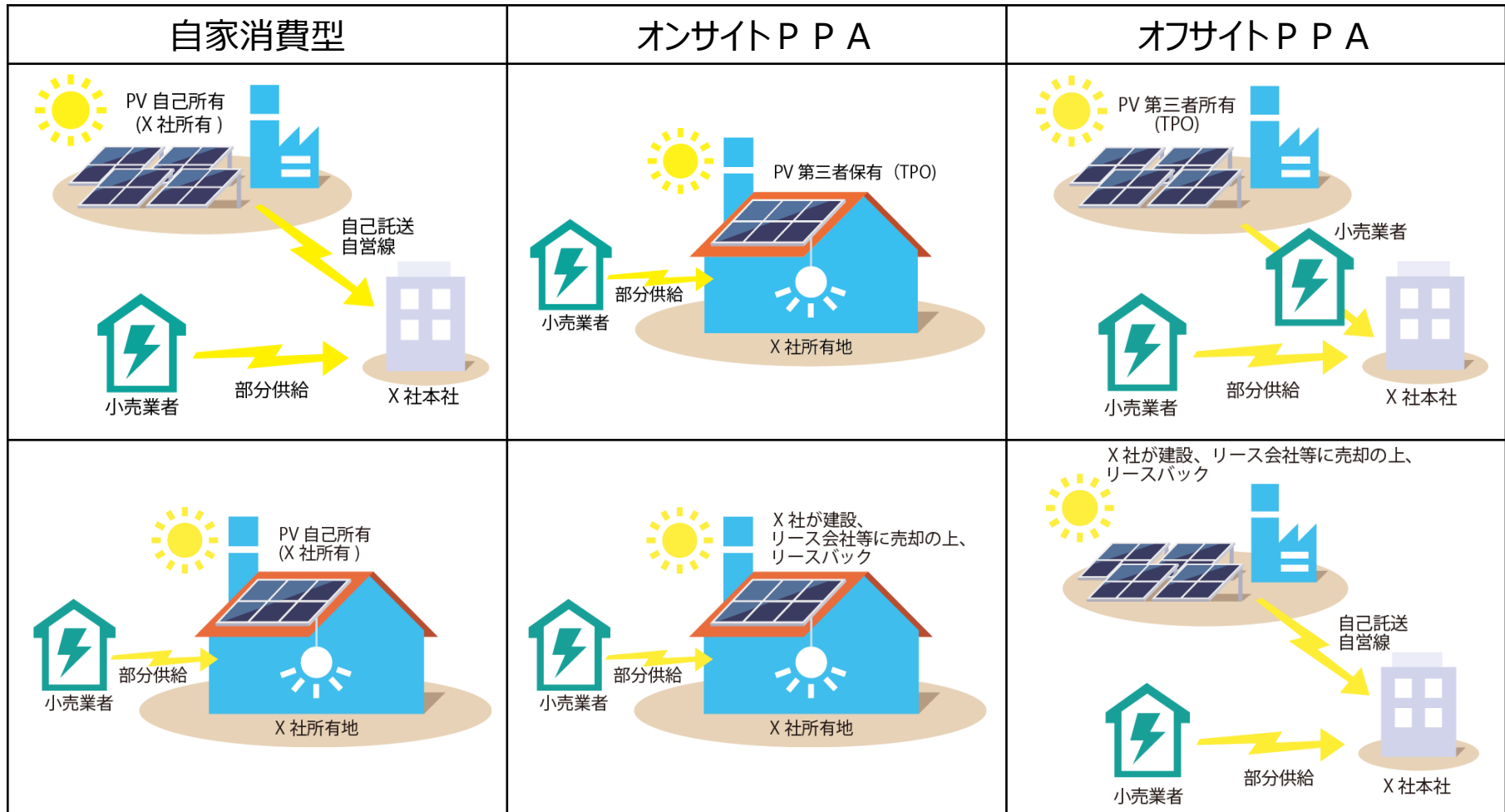
➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化
更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

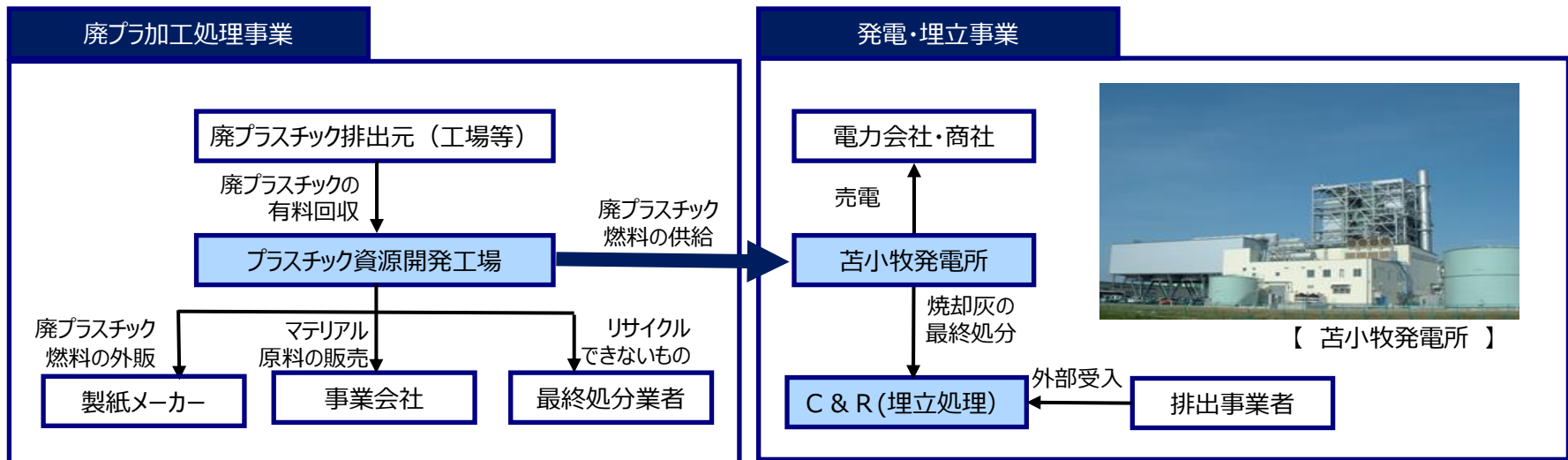
電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化



太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

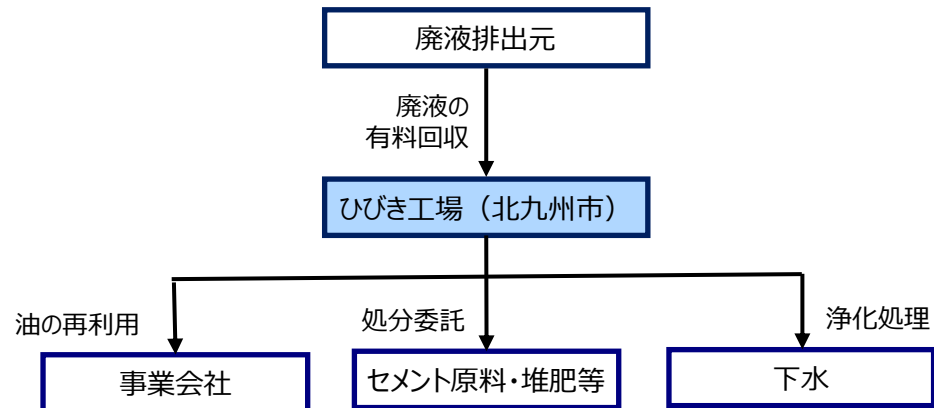
環境資源開発事業構造

資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

＜注意事項＞

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。

次世代へ快適な環境を
SANIX